

## 被災地における女性の起業支援セミナーin 仙台

あなたの“気づき”を仕事にするチャンス！～復興・まちづくりに向けて  
(復興と男女共同参画～コミュニティビジネスの立ち上げ支援)

■開催日時：平成 24 年 7 月 13 日（金）13:30～16:30

■開催会場：仙台市男女共同参画推進センター エル・ソーラ仙台 大研修室

■主催：内閣府・復興庁・（公財）せんだい男女共同参画財団

■協力：宮城県・仙台市

■参加者数：35 名

■内容：

13:30 開会（挨拶：藤澤美穂／復興庁参事官）

13:35 ワークショップ

「あなたの“気づき”が仕事につながる」

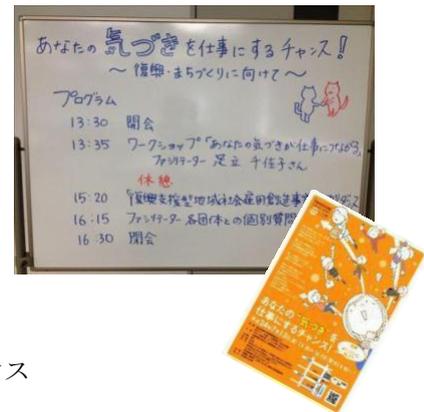
ファシリテーター：足立千佳子さん

（特定非営利活動法人まちづくり政策フォーラム理事）

15:20 内閣府「復興支援型地域社会雇用創造事業」ガイダンス

16:15 質問・相談・交流

16:30 閉会



### ◆開会挨拶

開会に際して、復興庁男女共同参画班 藤澤美穂参事官から御挨拶いたしました。

【藤澤】震災から1年以上が経った現在では、女性の雇用状況はだいぶ改善されてはきているが、まだまだミスマッチも大きい。こうした中で、本日は、雇用創造だけでなくまちづくり活動も精力的に取り組んでいらっしゃる足立先生にお越しいただき、アドバイスをさせていただく。後半は、内閣府において行っている被災地の就業・起業支援事業についての説明。このようなセミナーを国で開催するのは初めてだが、今後の皆様方の御活動に役立つ内容になればと思う。

被災地の女性の皆さんへの支援に取り組んでいきたい。被災地からの女性のパワーの発信につながればと思っている。



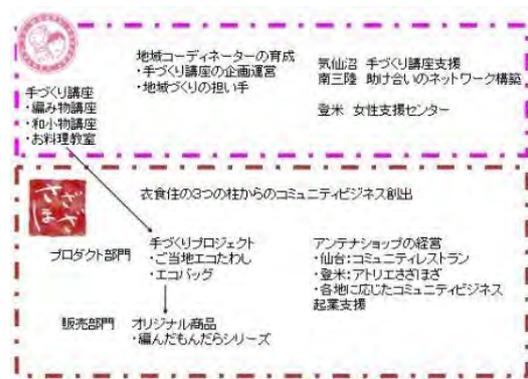
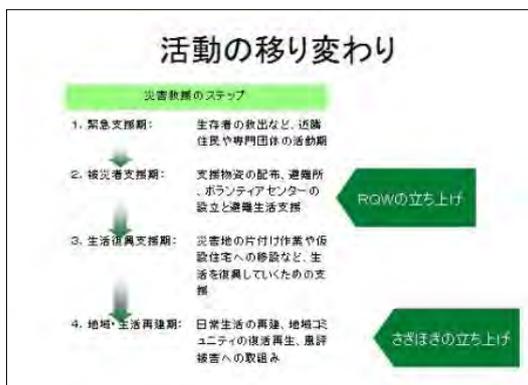
<藤澤参事官 挨拶>

## ◆ワークショップ「あなたの“気づき”が仕事につながる」

ファシリテーター：足立千佳子さん（特定非営利活動法人まちづくり政策フォーラム理事）

「まちづくりを専門に勉強してきたわけではありませんが、特定非営利活動法人まちづくり政策フォーラムに参画し、協働のまちづくりなど幅広い体験を積んできました。普通の主婦だった私が、それでもいまこのようにいろいろな活動ができているのだから、どなたにでもできます。大丈夫ですよ」と語り始めた足立さん。

足立さんは、東日本大震災後、すぐに RQ 被災地女性支援センターを立ち上げ、女性を中心とした被災者救援活動に取り組んできました。そして、現在は、これらの活動から派生した「さざほぎ」という新たなプロジェクトを主宰しています。



### 【足立さんのお話】

RQ 被災地女性支援センターは宮城県登米市に拠点が置かれています。登米市が拠点となった理由は、津波被害の大きく緊急支援の手が必要だった気仙沼・南三陸・石巻といった被災地に、それぞれ1時間半くらいで行けるからです。一日に何往復もするには、出来るだけ被災地に近い地に拠点を置くことが大事でした。だから、登米市には他にもいろいろなボランティア団体が拠点を構えました。二次避難所や仮設住宅もできました。

震災後すぐに現地に行き、ボランティア活動をしている中で、避難所での暮らしに、女性の視点が足りないということを実感しました。南三陸近辺、沿岸部のお母さんたちというのは、奥ゆかしいというか、遠慮深いというか、外に出るとお父さんを立ててあげる。だから、避難所などでも女の人の声が表に出てこないのです。避難所では間仕切りもありませんから女性は布団の中で着替えている。おかしいでしょう？「雨露しのげるだけでも幸せ」なんですか？ お母さんたちは何も言えない。お父さんたちも、「おれたちはみんなファミリーだから、間仕切りはいらない」なんて言っている。それもおかしい。

そうしたことを見聞きしているうちに、避難所や、その後過ごすことになる仮設住宅での被災女性支援の必要性を痛感し、昨年6月に RQ 被災地女性支援



センターを立ち上げました。

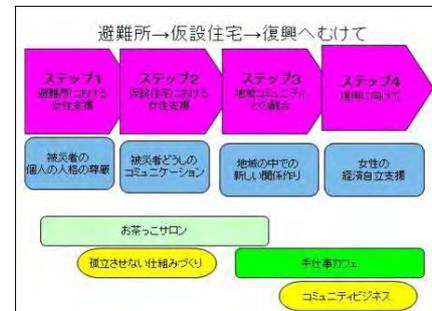
それに先立ち、昨年4月時点で「避難所→仮設住宅→復興へ向けて」どんなステップが必要となるか、私なりの仮説をたてました。

まずは「避難所から仮設住宅に向けて」がステップ1です。間仕切りもないような避難所生活における女性支援。つまり、被災者の人格、尊厳を守ろうということです。

ステップ2は「仮設住宅における女性支援」。仮設住宅にはいろいろな地域の人が集まります。集落が違う人たちが集まる中で、被災者同士がうまくコミュニケーションできるような工夫が必要です。

ステップ3は「地域コミュニティとの融合」。登米市にもとからある集落と仮設のコミュニティとが、「登米」という地域の中で新しく関係を作っていけるようにすることです。

そして、ステップ4は「復興に向けて」。ここで、女性の経済的な自立支援が必要となります。



このような仮説を立てて、ステップ1～3までは「お茶っこサロン」（孤立させない仕組みづくり）、ステップ3～4は手仕事カフェ（コミュニティビジネス）という場を提供してきました。

お茶っこサロンでは、手づくり講座などを行い（2011年9月22日～2012年5月31日までの間45か所、139回、1,594人参加）、2時間で何か自分のものを作って持ち帰ることができるということで楽しんでもらいました。仮設住宅の集会所や地域交流の施設、みなし仮設住宅（一般の借り上げアパート）などで開催し、編み物や縫物、その他のモノづくり、料理など趣味や憩いの時間を共有できる暖かい交流の場となりました。



そうこうするうち、お茶っこサロンの活動を通じて出会ったお母さんたちと、手作りしたモノを自分たちのブランドにしようという話になり、「さざほざ」ブランドを立ち上げることになったのです。

「さざほざ」とは、宮城の方言です。ある友人が、忙しく苛立っている人たちを見ると、よく「さざほざとすっぺし～（わきあいあいとしようよ）」と口癖のように言うのですが、この言葉、大好きです。震災後、お母さんたちと手作りブランドを作ろうと活動していた昨年6月頃は、ど

こを見ても「がんばろう」的なスローガンが多くて、逆にそれで苦しくなっていました。そんなとき、あの言葉、「さざほざとすっぺし」を思い出し、これをお母さんたちと共にやりたいなと思い、「さざほざ」プロジェクトをスタートさせました。

「さざほざ」は、エコと郷土愛にあふれた東北発信ブランドを確立し、製造・販売することで、地域の活性化と現金収入を生み出す事業を創出することがミッションです。

もともと、RQ 被災地女性支援センターは、地域コーディネーターの育成が中期的目標でしたが、それとは一線を画して、衣食住の3つの柱からのコミュニティビジネス創出という目的の下、本年6月に「さざほざ」が独立しました。

「さざほざ」の目指すことは次の3つです。

- ・被災地の復旧、再生、復興のプロセスを、地域に暮らす人の視点で具現化させる。
- ・具現化させるためのエンパワーメントのために手仕事を通じて経済活動を実践する。
- ・東北の暮らしの知恵を次世代、他地域に伝え、相互扶助の精神を養うきっかけとなる商品づくりに取り組む。

また、さざほざの活動の柱は、「(1) 被災地に暮らす女性たちの手仕事づくり、(2) 宮城の食のあり方、(3) 被災地の今を発信する」の3つです。

そして、さざほざのブランドの一つが、アクリル毛糸で編んだオリジナルデザインのエコたわし「編んだもんだら」。気仙沼、南三陸のお母さんたちが作っています。タコ、イカ、マンボウ、ヒラメなど、それぞれの地域の特産物をオリジナルのモチーフにしてお母さんたちに編んでもらっています。また、東松島市小野駅前仮設住宅のお母さん達がつくっているソックモンキーの「おのくん」の販売のお手伝いや、仙台市内のみなし仮設住宅にお住まいの方達の手仕事サークル「Myetle(マートル)」さんの商品開発支援なども行っています。



<足立さんとおのくん>



<おのくん>

登米市には美味しいものがたくさんあります。それを仙台で食べようということで始めたのが、コミュニティカフェ「うれしや」です。今年5月にオープンしました。営業日は毎週火曜、水曜、金曜。和室もあり、そこをコミュニティスペースとしています。



## 【ワークショップ】

足立さんのお話はここまでで、いよいよワークショップです。

「みんなの思いを「見える化」しよう！」

グループは6つ。グループにはあらかじめ、笹かま、ずんだ、青葉、広瀬、けやき、七夕の名前が付けられていました。足立さんから「3つの平等（時間の平等、意見の平等、立場の平等）」、「3つの自由（アイデアの自由、量の自由、便乗の自由）」というルールの説明があり、いよいよワークショップの始まりです。

### ●お宝たっぷり自己紹介＝資源を出し合う

まず、個人ワークでそれぞれが自分の関心事、趣味、活動、困っていること、問題に思っていることなどを付箋に1つずつ書き出しました。それから、書きだした付箋（自分のお宝＝資源）を模造紙に置きながら自己紹介です。



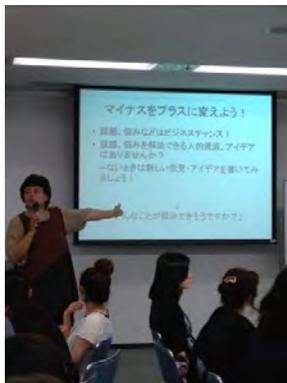
### ●お宝分析＝資源の整理

皆で出し合った自己紹介の付箋を見ながら、似ているものを一括りにし、それぞれにタイトルをつけ、資源の整理をします。今日初めて出会ったメンバー同士、次第に熱い議論が展開されていきました。



### ●ビジネスチャンスを見つける

次に、皆で出し合った資源の中にどのようなビジネスのタネがあるか考えます。「悩みや問題などのマイナス要素も見方を変えればビジネスチャンスなんです」という足立さんのアドバイスを聞きながら、どのグループもさらに議論は深まります。



### ●15秒コマーシャルを作ろう

グループを疑似会社に見立て、皆で出し合ったアイデアを絞り込み、「どんな会社で、何を提供するのか」、アピールするポイントを考え、まとめます。それを15秒のコマーシャルにし、発表のための準備開始です。

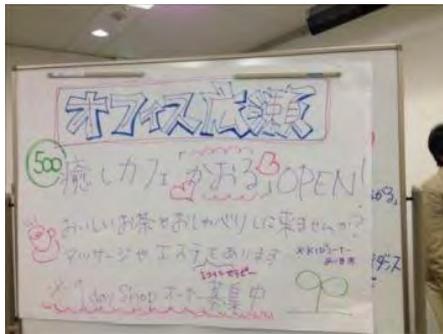


## ●グループ発表

6つのグループがそれぞれ15秒の商業メッセージを考え、模造紙に書き出したものを発表しました。15秒という短い時間の中でポイントを絞ったメッセージが伝えられました。ワークショップ開始時にすでにつけられていたグループ名を模擬会社名に使ったグループもあれば、新たに考案したグループもありました。

### <グループ広瀬>

『オフィス広瀬』です。ワンコインの癒しカフェ「かおる」をオープンします。美味しいお茶とおしゃべりをしに来ませんか？ マッサージやエステもあります。1デイ・ショップのオーナーを募集中です。」



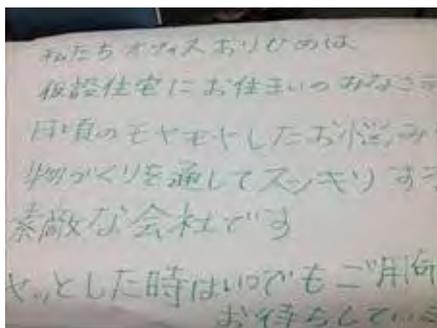
### <グループずんだ>

「私たち『ずんだオフィス』は被災地の女性の自立を支援するために、一人ひとりの特技をかたちにする素敵な会社です。自分でも何かできる！と思ったとき、いつでも御連絡ください。お待ちしております！」



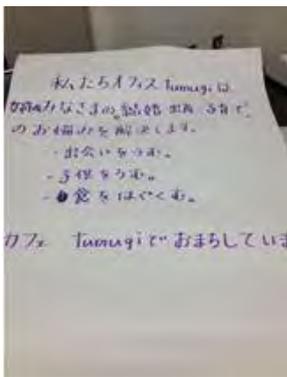
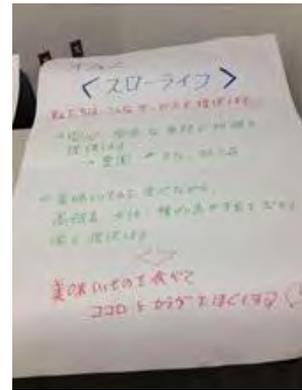
### <グループ七夕>

「私たち『オフィスおりひめ』は、仮設住宅にお住まいの皆さまの日頃のモヤモヤしたお悩みを、物づくりを通してスッキリする素敵な会社です。モヤッとしたときはいつでも御用命ください。お待ちしております！」



<グループ笹かま>

『オフィス・スローライフ』です。私たちは宮城が大好きという共通点を持っていて、宮城の安心・安全な食材と料理を提供する農園、カフェ…」(残念ながら、ここで15秒の持ち時間が過ぎ、タイムアップ。コマーシャルはここまでとなってしまいました。続きは写真で。)

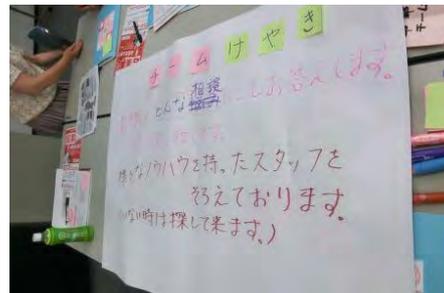


<グループ青葉>

「私たち『オフィス tumugi』は、女性の皆様の結婚、出産、子育てのお悩みを解決します。出会いを生む、子供を産む、食をはぐくむ、カフェ tumugi でお待ちしています！」

<グループけやき>

「私たち『チームけやき』は、皆様のどんな相談にもお応えする人材派遣をいたします。様々なノウハウを持ったスタッフをそろえております。いないときは探してきます。よろしくお願いいたします。」



## ◆内閣府「復興支援型地域社会雇用創造事業」ガイダンス

<復興支援型地域社会雇用創造事業とは>

被災地における起業と雇用を創造するため、社会的課題を解決するための新規性のある事業を行う「社会的企業」の起業や「社会的企業」を担う人材の育成を支援するもの。

説明：大河原文晴（内閣府政策統括官（経済財政運営担当）付参事官（産業・雇用担当）付）

<http://fukkou.chiikisyakai-koyou.jp/>

事業者説明：

- (1) 特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク

社会的企業の支援を通し、これからの石巻を担う女性、若者を育成

<http://fukkou.chiikisyakai-koyou.jp/group/ishinomaki/>

- (2) 特定非営利活動法人 20 世紀アーカイブ仙台

文化による復興・イノベーションを目指す起業家や担い手を育成

<http://fukkou.chiikisyakai-koyou.jp/group/20thcas/>

- (3) 公益社団法人日本サードセクター経営者協会

生活の安心と雇用を生み出す社会的企業（特に福祉分野（高齢者・障害者・子育て））を応援

<http://fukkou.chiikisyakai-koyou.jp/group/jacevo/>

- (4) 一般社団法人H I T

まちづくり、地域福祉、農水産林業、環境エネルギーなど多様なテーマで起業する人を応援

<http://fukkou.chiikisyakai-koyou.jp/group/hit-north/>

まず、内閣府の産業・雇用担当より事業の概要について説明があり、続いて4つの事業者からそれぞれの団体が行っている内容について、特に女性の起業・就業支援への取組について熱いメッセージが述べられました（各事業者の取組内容については、WEBのリンク先を御参照ください）。



### ◆質問・相談・交流タイム

ひととおり事業者説明が終わったところで、6つのテーブルにファシリテーターの足立さん、4事業者の皆さん、内閣府の事業担当がそれぞれ分かれて座り、参加者は各自が興味を持ったテーブルに移動し、時間いっぱいまで、熱心に質問や相談がなされていました。



### ◆参加者アンケート

参加者 18 人からアンケートに御協力いただきました。仙台市内から参加された方がほとんどでしたが、郡山市、さいたま市からの参加もありました。

#### <参加動機>

- ・自分が普段考えているアイデアや問題意識をどう仕事として膨らませていくのか勉強したかったから。
- ・仕事につきたい。仕事を探しているのです。
- ・外に出て仕事はしたいが、なかなか時間的なものや、やりたい仕事が見つからなかったため。
- ・社会的企業への就職、ひいては起業を志していたので。
- ・復興に向けて自分がどう関わるべきか考えており、「自分で仕事をつくる」という道に興味を持ったため。

<ワークショップで得たもの・気づいたこと>

- ・いろいろな人の話を聞くことができ、自分の考え、想いを再確認することができた。
- ・人それぞれに得意なこと、やりたいこと、困っていることはあるが、それらを何人かで共有することで、「こんなふうなことができる？」など、知恵を集めることができるということがわかった。仲間をつくることが大切。
- ・きっかけは人の役に立ちたい、助けたいだけれど、そこをどう収益にしていけばいいのか、継続する仕組みが必要ということがわかった。

<復興支援型地域社会雇用創造事業のガイダンスで得たもの・気づいたこと>

- ・起業のハードルは思ったより高くないということ。
- ・情報を得る・探す、ということが、まず大切だと思いました。
- ・自分自身の経験などを生かし、ぜひビジネスプランコンペに参加したいと思いました。

<セミナーを通じて印象に残ったこと、御意見・御感想>

- ・素晴らしい方々とつながることができました。
- ・もやもやしているものがあるとき、相談に乗ってくれるところや人はいる。外に出ていかなければ！！と思いました。
- ・仙台以外でも開催してほしい。